
一般演題（ラウンドテーブルディスカッション (RTD)） | その他

[RTD4]RTD4群 その他①

座長:寺師 榮(東洋医療専門学校 救急救命士学科)

Fri. Oct 4, 2019 4:20 PM - 5:20 PM RTD会場 (2F 国際会議室)

[RTD4-2]医療現場における患者安全に役立つ眠り SCAN[®]の有用性の検証

○炭家 千尋, 大川 貴治, 男席 夏実, 川合 いずみ, 浅香 えみ子 (獨協医科大学埼玉医療センター看護部)

【背景・目的】

Rapid Response System (RRS) は予期せぬ院内心肺停止率、死亡率の低下や入院日数を削減する可能性が示唆され、国内外の医療安全指針に採用されている。RRSの第1コンポーネントである求心的視点（患者のバイタルサイン等の異常への気づきとRRSの起動）は、看護師の状況認識力のひとつであるため、能力差により状態変化を見逃される可能性があることから、モニタリングの重要性が強調されている。しかし、全患者に生体情報モニターによる観察を行うことは、物理的に不可能である。これらの現状から、看護師の能力差によらず、患者への負担が最少で状態変化の把握ができ、適切なタイミングでの訪室と観察に繋がるシステムが望まれる。そこで、介護施設において、「見守りシステム」として利用されているパラマウント製品の「眠り SCAN[®]」が急変の前兆を早期に確認する患者安全のデバイスとして活用可能性があるのではないかと着眼した。しかし、眠り SCAN[®]は生体情報モニターではないため、患者の病態を正確に反映するものではない。ただし、患者の状態変化を示す呼吸数と心拍数が眠り SCAN[®]により得られる指標として含まれる。そこで、眠り SCAN[®]の指標が患者の病態変化を捉える看護師の感覚を裏付けることができるかを検証することとした。

【方法】

ベッドサイドで呼吸・循環を持続モニタリングする必要のない救命病棟入院患者に対して、眠り SCAN[®]を退院まで使用した。人工呼吸器装着中の患者と15歳未満の小児患者は対象から除外した。眠り SCAN[®]で得られる指標（呼吸回数、心拍数、活動量）のうち、急変前兆候を示す呼吸と心拍数に焦点をあて、設定数を逸脱した場合には訪室し、患者の迅速評価、一次評価を行った。但し、眠り SCAN[®]によるデータに変化がない場合も看護師の懸念が生じた場合は訪室することを前提としている。

【倫理的配慮】

得られたデータは匿名化を図り、機密性確保に努めた。また、研究発表後は再現不可能な状態でデータは破棄をする。

【結果】

対象患者は28名であった。看護師が訪室しようと思うレベルの数値が眠り SCAN[®]で示された患者に迅速評価・一次評価を実施した結果、眠り SCAN[®]の数値は、実測の呼吸数や心拍数、と差異がなかった。一時的に眠り SCAN[®]で逸脱した値を示した症例は、体動や咳嗽反射によって現れた生体反応であった。持続的に眠り SCAN[®]で逸脱した値を示した症例は、疼痛や喘息発作、発熱による生体反応であった。

【考察】

看護師が「何かおかしい」と感じて観察する状態のバイタルサインと眠り SCAN[®]が表すシグナルは差異が無く反映していることが明らかとなった。よって、眠り SCAN[®]の指標は患者の病態変化を捉える看護師の感覚を裏付ける可能性が高いことが示唆された。

しかしながら、本研究で対応した看護師は中堅以上であったため、経験値などによって差が見られないかという点においては追研究が必要である。さらに、眠り SCAN[®]は医療機器や耐圧分散式エアマットレスの振動を読み取るという特性を踏まえた対象患者の選定と、同時にサンプル数を増やして追研究することで、この先、急変の前兆を早期に確認する患者安全に役立つデバイスとして医療現場で使用できる可能性が高まると考えられる。